

## ダブルブラインド方式からシングルブラインド方式への査読審査方式の移行について

サービソロジー論文誌では、これまでダブルブラインド方式での査読審査を行ってきました。ダブルブラインド方式では、論文の投稿者側には査読者の氏名や所属情報が開示されず、査読者側には投稿者の氏名や所属、謝辞情報が開示されません。これにより、査読審査における匿名性が担保されます。

しかしながら、直近の本学会論文誌への投稿数の増加により、本出版委員会事務局における投稿者と査読者の利害関係の確認の負担という課題が顕在化してきました。また、ダブルブラインド方式による審査の現状においても、本論文誌には国内大会や ICServ での発表に関連するものが投稿され、本学会発表での公開情報から著者が推定できるケースがあります。このようにネット等での情報の取得が容易なケースがあり、厳密なダブルブラインドの体制を維持するのが困難になってきてます。また、近年ではプレプリントサーバの活用が進展し、論文投稿と同時、もしくは先行してプレプリントを公開する様式も普及しています。

そこで、本査読委員会では、ダブルブラインド方式からシングルブラインド方式へと査読審査の方式を変更することで、査読プロセスの効率化を図ることにいたしました。

シングルブラインド方式では、投稿者に査読者の名前が明かされませんが、査読者は投稿者の情報が記載されたままの論文を査読します。ダブルブラインド方式では、著者が個人を特定できる部分を全て削除してから投稿するといった作業が必要になりますが、シングルブラインド方式を採用することで、投稿者によるその作業の負担が減ります。また、査読者自身から著者との利害関係の申告を受けられるようになり、査読委員会の事務局への負担も軽減し、査読におけるプロセスの効率化、期間の短縮に繋がることが期待されます。

サービス学会では、査読結果を査読委員会にかけ、査読委員会メンバーで確認後に承認するという査読審査のプロセスを採用しています。査読内容に問題ないか、多くの査読委員の目で、第三者の視点から確認をしているため、シングルブラインドへの移行後も、査読内容にバイアスが出るなどの大きな問題は生じないと考えています。

シングルブラインドによる査読審査は、2021年11月21日以降の投稿から採用いたします。つきましては、シングルブラインド方式が適用される論文を投稿される著者の方は、シングルブラインド用の原稿テンプレートを用いるようにしてください。経過措置として、当面は過去の原稿テンプレートでの投稿も受け付けますが、シングルブラインド移行後は査読者に著者名や所属情報が開示されますので、ご了承ください。

本査読委員会では、査読審査プロセスの質と効率の向上に努めてまいります。  
今後も積極的なご投稿をお待ちしております。

未筆ながら、本件に関して直前のアナウンスとなりましたことをお詫びいたします。

2021年10月22日

サービス学会出版委員会

サービスロジーEditors in Chief（編集長）

村松潤一、内平直志、西野成昭